令和９年度福井大学医学部附属病院臨床研修プログラムの名称及び概要
研修スケジュール一覧

〇福井大学医学部附属病院臨床研修Ａプログラム（No.030331526）

臨床研修Ａプログラム（定員２１名）：２年間大学病院で研修

※診療科の選択やローテート順は各個人の希望で決定できます。

プログラム責任者：小淵　岳恒　　副プログラム責任者：山村　修

1年目	１	２	３	４	５	６	７	８	９	１０	１１	１２
	必修科目又は選択科目（※）											

2年目	１	２	３	４	５	６	７	８	９	１０	１１	１２
	一般外来（４週）２年目のみ 地域医療（４週）２年目のみ 必修科目又は選択科目※											

※必修科目：６４週

（内科２４週・救急部門１２週・外科４週・小児科４週・産婦人科４週・精神科４週・麻酔科４週）２年目（一般外来４週・地域医療４週）

※選択科目：４０週

（例１）

将来目指す診療科(全診療科可能)を研修の最初から優先してローテートする場合：

目指す診療科の基礎的診療能力を習得します。

1年目	１	２	３	４	５	６	７	８	９	１０	１１	１２
	選択科目（外科系）			内　科					救急部門			必修科目
	１２週			２４週					１２週			４週

2年目	１	２	３	４	５	６	７	８	９	１０	１１	１２
	一般外来	地域医療	麻酔科	必修科目			選択科目					
	４週	４週	４週	１２週			２８週					

（例２）

必修科目を優先してローテートする場合：

内科系などを中心に基本的な診察法や診断学等を習得します。

1年目	１	２	３	４	５	６	７	８	９	１０	１１	１２
	内　科					救急部門			必修科目			
	２４週					１２週			４週	４週	４週	４週

2年目	１	２	３	４	５	６	７	８	９	１０	１１	１２
	一般外来	地域医療	麻酔科	選択科目								
	４週	４週	４週	４０週								

（ａ）内科研修

内科の２４週以上は、血液・腫瘍内科、感染症・膠原病内科、脳神経内科、消化器内科、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、腎臓内科、循環器内科から各４週以上を選択します。

（ｂ）救急部門研修

救急部または、麻酔科蘇生科を選択します。

但し、麻酔科蘇生科を選択した場合は、上限４週となっています。

また、救急部門の研修として、救急患者への対応を身に付けるため、研修２年間を通して、救急部医師指導のもとに救急外来にて、当直（平日の準夜帯および休日の日勤帯等）を１月４～５回程度行います。

［救急部研修］

将来、外勤先や就職先にて当直の際に大きな間違いをしないために、救急初期診療の実践訓練を主体とします。ＥＲにおける全科の受診患者の初期診療やＥＲ受診後、数日の通院で完結できそうな患者の通院加療、また、救急部入院患者の診療等を行います。全ての救急患者に対して、電話連絡の時点からの情報収集、患者や家族、救急隊へのアドバイスから、救急室における初期診療全般に関して、救急部・総合診療部医師の監督、指導のもとに実践します。

［麻酔科蘇生科研修］

手術室で、重症患者管理、救急蘇生、救急処置が速やかに行える技術を習得します。麻酔科蘇生科で８週間をこえて研修しても、救急部門の研修としては４週間しか認められませんが、最低義務週数を獲得すること以上のメリットがあります。他施設では見学が主体の研修であることがありますが、当院では、実際に麻酔しますから、電子カルテの操作に習熟し、入院患者の病態を短時間で的確に把握できるようになり、主訴から検査、診断、手術方法の決定までの過程をコンパクトに経験でき、一流の手術手技を特等席から直視下で解説付きで見学することができ、その場でマクロの病理標

本を確認できます。短期間でたくさんの症例を全科にわたって経験できます。麻酔に限らず、全科にわたって、疑問・質問に直ぐに答えが得られる環境です。手術室では、歩いて入室した人が、１０分後には意識不明で呼吸停止して横たわっています。毎日こういった状況に対処しますので、臨床現場の医師としてあれこれ自信がつきます。

（ｃ）地域医療研修

地域医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、「かかりつけ医」として必要な技能と判断力のうち最低限のものを身につけます。

（ｄ）外科研修

外科１（消化器外科、乳腺・内分泌外科）、外科２（心臓血管外科、呼吸器外科）から１科を選択します。

外科的疾患に対する診断法・手術手技・術後管理の基本と外科的救急疾患へのプライマリ・ケアが修得できるよう研修します。

（ｅ）小児科研修

小児医療を適切に行なうために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。

・小児および小児期の疾患の特性を学び、小児の診療の特性を学ぶ。
・健診などを通して発育、発達についての知識を深める。
・年齢による検査値や薬用量の違いを知る。
・母親など保護者との信頼関係の確立とコミュニケーションの保持に努める。

（ｆ）産婦人科研修

一般患者全般を診るために必要な産婦人科診療を体験し学びます。具体的には、妊娠に関連する症状や異常、婦人科疾患による諸症状を、他の異常と見誤らない能力と知識を身につけます。

（ｇ）精神科研修

精神症状を有する患者に対して、心理−社会的側面を重視した基本的な診断および治療ができ、必要な場合には適宜精神科への診察依頼ができる技術を修得します。具体的には、主要な精神疾患・精神状態像、特に研修医が将来、各科の日常診療で遭遇する機会の多いものの診療を、指導医とともに経験します。

（ｈ）一般外来研修

症候・病態について適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患の継続診療を行うために、特定の症候や疾病に偏ることなく、原則として初診患者の診療及び慢性疾患患者の継続診療を含む研修をします。

（ｉ）病院で定めた必修科目：麻酔科蘇生科

手術室での研修を基本として、重症患者管理、救急蘇生、救急処置が速やかに行える技術を修得します。

（ｊ）選択科目研修

選択科目研修は、それまでの研修で不十分であった部分を補ったり、臨床研修の到達目標を考慮しつつ、将来のキャリアに円滑につながるよう以下の科目からいくつかの科目を自由に選択します。

内科（血液・腫瘍、感染症・膠原病、脳神経、消化器、内分泌・代謝、呼吸器、腎臓、循環器）、外科（消化器、乳腺・内分泌、心臓血管、呼吸器）、泌尿器科、皮膚科、形成外科、整形外科、リハビリテーション科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、小児科、産科婦人科、神経科精神科、脳神経外科、麻酔科蘇生科、放射線科、救急部・総合診療部、病理診断科/病理部、緩和ケア科、地域医療（２年目のみ）、地域保健（２年目のみ）

〇福井大学医学部附属病院臨床研修Ｂプログラム（No.030331527）

臨床研修Ｂプログラム（定員２名）：１年目を大学病院で、２年目を協力病院で研修

プログラム責任者：遠山　直志

（例）

1年目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２
	内　科					救急部門			麻酔科	必修科目		
	２４週					１２週			４週	１２週		

2年目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２
	たすきがけ病院の研修プログラムによる（なお、地域医療４週以上は必修科目）											

・Ｂプログラムの研修はＡプログラムに準じて、たすきがけ病院と調整を取りながら行います。

〇福井大学医学部附属病院臨床研修Ｃプログラム（No.030331528）

臨床研修Ｃプログラム（定員１１名）：１年目を協力病院で、２年目を大学病院で研修

プログラム責任者：西山　康裕

（例）

1年目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２
	たすきがけ病院の研修プログラムによる											

2年目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２
	地域医療	麻酔科	必修科目又は選択科目									
	４週	４週	４４週									

・Ｃプログラムの研修はＡプログラムに準じて、たすきがけ病院と調整を取りながら行います。

・２年目の大学病院での研修は将来専門としたい診療科を中心に関連の診療科での研修も可能です。

○福井大学医学部附属病院臨床研修小児科重点プログラム（No.030331529）

小児科重点プログラム（定員２名）：２年間大学病院を中心に研修

プログラム責任者：梅田　雄嗣

（例）

1年目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２
	内　科					小児科	救急部門			外科	産婦人科	精神科
	２４週					４週	１２週			４週	４週	４週

2年目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２
	小児科	麻酔科	産婦人科	地域医療	一般外来	選択科目		小児科				
	４週	４週	４週	４週	４週	１２週		２０週（内 8 週は NICU）				

○福井大学医学部附属病院産婦人科重点プログラム　（No.030331530）

産婦人科重点プログラム（定員２名）：２年間大学病院を中心に研修

プログラム責任者：山田　直樹

（例）

1年目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２
	内　科					救急部門			必修科目			
	２４週					１２週			１６週			

2年目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２
	一般外来	地域医療	麻酔科	産婦人科	選択科目		産婦人科					
	４週	４週	４週	４週	１２週		２４週					